

事例紹介 「自治体による取り組み」

大和市の
取り組み

安全で安心して通行できる「まち」に

大和市長 大木 哲氏

大和市は平坦な地形が多く、市内の鉄道駅は市域のほとんどから2km以内の立地にあり自転車利用者率が非常に高いまちです。しかし、自転車利用に配慮した道路の不足や交通ルールの認知度低下から自転車



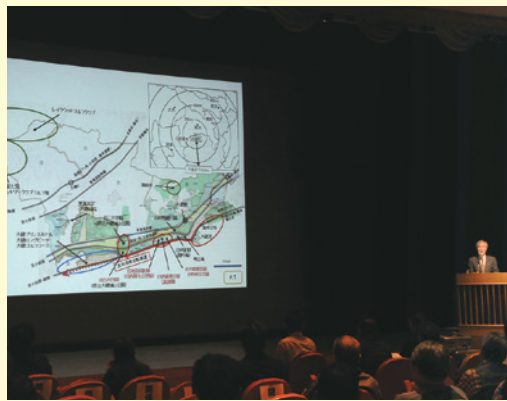
事故が多発。その解決策として自転車レーンやナビマークなど国内でもトップクラスの自転車通行空間を整備し、自転車事故数半減、違法駐車減少という効果を創出しました。平成28年には被害者救済・加害者負担軽減を目的に、市立小学校5・6年生対象に自己負担額0円、全額大和市負担という全国初の自転車保険が付帯された自転車運転免許証の交付を開始。翌年には中学3年生まで対象を拡大し、若年層の交通安全意識を高めています。今年はさらに自転車見回りサポーターを設置し、安全で安心して通行できる「まち」の実現に向けて市民とともに取り組んでいます。

大磯町の
取り組み

広域的なネットワークで観光促進

大磯町長 中崎 久雄氏

横浜、鎌倉、箱根に次ぐ神奈川県内の観光地として注目されている大磯町。相模湾や富士山が一望できる豊かな自然環境に加えて、湘南発祥の地、海水浴発祥の地など



文化の発信地でもあり、多くの政治家や文化人も別荘や邸宅を構えた魅力溢れるまちです。細い道、隆起に富んだ地形は一見、自転車利用には不向きなように思えますが、近隣市や町とも近距離のため、大磯を中心とした新しい観光ネットワークの構築に期待が寄せられています。自転車で美しい海と爽やかな風を感じながら太平洋岸自転車道を通り、内陸部へ向かうと今度は雄大な山々が目前に広がります。スムーズな回遊性の創出のための安全な自転車道、駐輪場やレンタルサイクルなど自転車利用のための周辺環境の充実が重要と考え、すでに整備を始めています。

横浜市
の
取り組み

横浜市自転車総合計画

横浜市道路局長 中島 泰雄氏

2016年に横浜市自転車総合計画（愛称：みんなの「快適サイクルプラン横浜」）を策定し、自転車の正しい利用で誰もが快適に過ごせるまちづくりを推進しています。【まもる】【はしる】【とめる】【いかす】の



四つをテーマに設定、自転車利用促進の施策を進めます。【まもる】では、自転車の交通ルールの周知不足に対し、ルールブックの作成や学校への訪問指導などで正しい知識を啓発・教育していきます。【はしる】は、鉄道駅周辺を重点的に、自転車通行空間の整備をします。【とめる】は駐輪場の確保、放置自転車の移動・保管など、自転車利用者の特性に従った駐輪対策を進めます。【いかす】は「ベイバイク」の推進や保険加入の促進などソフト面での取り組みが含まれています。四つのテーマそれぞれの課題の解消を通じて、自転車の充実した活用を考えていきます。

「暮らし」のなかで自転車は交通手段の一つですが、「観光」に視点を移したとき、どう自転車を生かしていけるとお考えでしょうか。



神奈川県サイクリング協会 名誉会長 齋藤 文夫氏



大磯町長 中崎 久雄氏

新しい観光の方法

「暮らし」のなかで自転車は交通手段の一つですが、「観光」に視点を移したとき、どう自転車を生かしていけるとお考えでしょうか。

的に進めていきたいと考えます。

健康寿命を延ばそうと、い

た。バスや自動車で観光するとまちを点と点でしか回れません。でも自転車なら、気ままに細道に入ったり新しい視点で観光できます。

まはウォーキングに力を入れているのですが、自転車も今後は取り入れていこうと思っています。次に災害時の自転車の有効活用です。大きな地震が起きたとき、もつとも機動性を発揮するのは自転車ですから、行政としてどう備え、活用していくかは考えておくべきでしょう。そして、観光来訪促進です。今後、横浜ではラグビーワールドカップ

多分野で有効活用

「自転車活用推進法が施行されました。どんなことを期待されますか。」

中島 基本方針として14項目が挙げられています（横浜市では）なかでも3項目に注目しています。まず、国民の健康増進と学校教育などにおける青少年の体力向上という項目です。超高齢化社会を迎えたなかで、横浜市でも健康寿命を延ばそうと、い

またウオーキングに力を入れているのですが、自転車も今後は取り入れていこうと思っています。次に災害時の自転車の有効活用です。大きな地震が起きたとき、もつとも機動性を発揮するのは自転車ですから、行政としてどう備え、活用していくかは考えておくべきでしょう。そして、観光来訪促進です。今後、横浜ではラグビーワールドカップ



2015年に完成した大磯町駅前自転車駐輪場

運転体験やパネル展示

転車の走行マナーを楽しみながら再確認できたという声も聞かれた。

展示紹介

会場には、横浜市、大磯町、三浦市などで取り組んでいる事業のパネル展示や横浜市のコミュニティサイクリング「ベイバイク」の実物展示、横浜市交通安全協会の自転車保険の紹介など、自転車に関するさまざまな施策に触れることができるコーナーも設置されています。特に後方から接

近する自動車や物陰から飛び出す人など、実際に自転車運転するとき起こりうる危険をリアルに再現した「自転車シミュレーター」には多くの来場者が参加。シミュレーションではモニターに映し出された交通状況に対して的確な状況把握と判断が求められるため、自分の運転技術や自

も開催されますし、MIC E（多くの集客交流が見込まれるビジネスイベント）の開催・誘致も積極的に取り組んでいます。国内外からより多くの観光客が訪れると思います。そのときに自転車はかなり注目されるでしょう。ベイバイクもそうですが、場合によっては民間の企業と一緒に提供できるツールや仕組みを作っていくことが必要だと感じています。たとえば横浜の坂を楽しめるサイ

クリングの仕組みなんかがあってもおもしろいですね。



横浜市道路局長 中島 泰雄氏

ンピックもありますからこれからインバウンド（訪日外国人客）には相当期待ができます。外国人は日本の家庭や文化や地域を知りたいわけです。かつては団体旅行で一気に時間ももなく観光していましたが、いまはきめ細やかにその地域を知りたいお客さんが多い。そういうときに自転車と回遊できる施設やガイドがあつたりすると、これは非常に喜ばれると思うんです。新しい神奈川県を知ってもらうチャンスですよ。いよいよ自転車の時代が来ると期待しています。

大木 今までは違った分野で自転車が活躍できる時代ですね。そのためにも人と自動車と自転車が共存できるような環境整備をきちんとやっていかなくてはならないですね。



会場には「ベイバイク」の実物展示も



官民の取り組みを展示